

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立天領小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 836-0054
福岡県大牟田市天領町1丁目145番地1

E-mail : tenryo-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tenryo-es/index.html

児童生徒数：男子 149名 女子 150名 合計 299名
 児童・生徒の年齢 6歳 ~ 12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

天領小学校のユネスコスクール活動

1 活動事例

【第2学年・地域学習「レッツゴー!まちたんけん」(生活科)】

校区にある商店や会社を訪ね、働く人に聞き取りをして仕事の様子を調べる学習をした。

商店や会社の仕事の様子を観察し、働く人に品物を売するための工夫、品物をつくるための苦労や喜びなどについて話を聞いた。タブレットPCを活用し、商店や会社の人と話をして様子を録画したり、商店や会社の施設等を撮影したりして、その後の振り返りに生かした。

学校に戻ってから、調べたことを生活科ノートに書いて交流したり、商店や会社の人に手紙を書いたりして、商店や会社の仕事について理解を深めるとともに、校区に住む人々へのふれ合いを通して親しみを深めた。



地元の醤油の会社を訪ねて

【第3学年・地域学習「安全な地いき」(総合的な学習)】

校区のみんなが安心して暮らすことができるよう、子どもたちが、地域の危険箇所等を調べ、注意を呼びかける「地域安全マップ」を作った。

地図上に次の三色のシールを貼った。

青 …じこがおこりそうであぶない
黄 …ふしんしゃがいそうであぶない
緑 …そのほか(川やみぞ)

シールの番号と合わせて注意してほしい内容を書いたカードを地図のまわりに貼った。

「この道路はトラックがとおってあぶないです。」「わかれ道で車がきゅうに来たらあぶない。」など交通安全の面から、「公園にあやしい車がとまっても近くに行かない。」「家の近くに木の多い暗い神社があるからあぶないよ。ふしん者がいるかもしれない。」など防犯の面から、「病院の近くのみぞが落ちたらあぶない。」などその他の面から注意を促している。

自分達の力で情報を集め、特に年下の1・2年生を意識して、情報を発信する活動を行っている。自分達の地域の安全は、自分達の力で守るという意識を早い時期から育てる取組となっている。



地域安全マップ

【第6学年・地域学習「天領から見てきた大牟田のまちづくり」(総合的な学習)】

6年生では、前学年までの地域学習をもとに視野を広げ、郷土・大牟田のことをより深く調べ、その発展を願う行動へとつなげていく学習を行った。

子どもたちは、校区にある三池港とそこから北へ延びる有明沿岸道路沿いの様子をくわしく調べ、工場、運送会社、発電所、リサイクル施設等を白地図に書き込んでいった。すると、港と沿岸道路沿いにこれらの施設がつながりをもって立地していることに気付いた。統計資料から大牟田の工業生産額、リサイクル率の高さなどを知った子どもたちは、「工業・エネルギー・リサイクルのまち」大牟田をPRしたいと考えた。そこで、他地域の小学生に向けた社会科見学のコースを作り、旅行会社の方に提案・説明した。

子どもたちは、さらに大牟田の特長を生かすまちづくりについて話し合い、「3つの提案」にまとめた。①大蛇山まつりのように人を呼べる行事や名所を増やす、②工業技術を生かし大牟田を水素タウンにする、③リサイクルを一層進める、である。



旅行社の方に社会科見学コースを提案

これらの3つの提案を「ユネスコスクール子どもサミット」で発表した。子ども達は、大牟田が、魅力のある街として未来に向かってさらに発展していくよう、みんなで力を合わせてできることを実行していきたいと決意を述べた。

子どもたちは、見学・調査活動とインターネットや統計資料を活用して調べる活動を行い、大牟田のまちの魅力や特長を再発見した。そして、その魅力をPRする方法や特長を生かすまちづくりについても考え、自分達にできることを実行しようとする活動を行った。このことが、郷土を愛し、郷土の発展を願いともに考え行動する態度を育てることにつながったと考える。

2 活動の成果と課題

○ 成果

- ・低学年からの豊かな体験の積み重ねにより、地域への親しみや愛着が育ってきている。その上に立ち、地域の安全を守ったり、地域の発展について考えたりする活動を設定したことにより、郷土を愛し「ともに未来を築く」態度と行動が育った。
- ・身近な所から無理のない課題を設定することにより、具体的な行動が見えてくる。子どもたちが課題解決のために考えを出し合い、協働して取り組む姿が見られた。
- ・総合的な学習に、社会科における資料を活用して調べまとめる活動や算数科におけるグラフを読む活動を生かすなど横断的な学習活動の設定により、子どもが身に付けている力を活用して課題解決を行うようにすることができた。

○ 課題

- ・三池港の世界遺産登録を想定し、子どもガイドや案内マップ作りなど、子どもができる活動を考えさせていきたい。
- ・「環境・エネルギー」学習をより充実させる。そのために、有明高専や地元のリサイクル・エネルギー関連の会社のサポートを受けるなどして学習内容・方法を工夫する。
- ・他の学校とのネットワークを生かした共同学習を行い、学びを広げる必要がある。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

■ 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他 ()